

# 令和元年度（2019年） 中伊豆中学校研修構想

学校教育目標

夢を叶える

伊豆市統一研修テーマ「自ら学習に向かい 学び合いを通して 力が付く授業づくり」

課題意識を持ち、主体的に学び合う

「わ・た・し」の授業の実現 ～自分事として学びを追求する生徒～

「わ」→分かりたいと思う問いのある授業、「た」→楽しさを実感する授業、「し」→主役は生徒の授業  
 〈仮説〉生徒に付けたい資質・能力を明確にし、分かりたいと思う学習課題の提示や解決の見通しを持つための学習形態を工夫していけば、生徒が仲間と関わり合う中で、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わい、知識を人生や社会と関連付けながら深く学ぶことができるだろう。

「わ・た・し」の授業における目指す生徒像

～ 自分事として学びを追求する生徒 ～

①自ら学習に向かう生徒	②学び合いをする生徒	③力が付く生徒
<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心を持って主体的に学習課題に取り組む</li> <li>・追求課題を持ち、学習活動をつなげる</li> <li>・自分で判断し、見通しを立てる</li> <li>・家庭学習に意欲的に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の意見を聞き、自分の考えと比較して、関わりの中で学び合いを広げる</li> <li>・他と関わる力や自分の考えを表現する力を持つ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだことを自分の言葉で表現する</li> <li>・実社会や実生活で活用する</li> <li>・学びの実感を持つ</li> <li>・問いを新たに持つ</li> <li>・自己の成長を把握する</li> </ul>

(1) 「わ・た・し」授業づくり ～ 自分事として学びを追求する生徒 ～

① 「わ」→分かりたいと思う問いのある授業

- ・生徒にとって必要感のある課題や生徒が分かりたいと思う学習課題の工夫とそのための教材研究
- ・生徒の興味関心や経験、特性などの生徒理解の深化

② 「た」→楽しさを実感する授業

- ・付けたい資質・能力を明確にし、各教科の見方・考え方を働かせるような単元構想や授業構想
- ・個別支援と評価及び授業での積極的な称揚

③ 「し」→主役が生徒の授業

- ・個人で考える時間や意図を持ったペア活動、グループ活動など多様な学習形態
- ・自分の考えを表現する場や自分の言葉で振り返りをする機会の設定 ・教育のUD
- ・学びの伝え合い、広げ、理解を深めるためのコーディネート ・ICTの活用

(2) 「特別の教科 道徳」に向けた体制づくりと指導改善

- ① 全体計画の見直しと別葉の完成、学習指導要領の理論理解、道徳推進教師のリーダーシップ
- ② 道徳ファイル・ノート、生徒の学びの蓄積及び評価の研究
- ④ 「価値理解」「人間理解」「他者理解」による発問構成の工夫（授業改善）
- ⑤ 多面的・多角的に考える授業、板書の工夫、研究授業、交流授業

## 各部の取組

～ユニバーサルデザイン「見える化」の視点～

- 〈生徒指導部〉 基本的生活習慣の徹底、先手あいさつ、居心地の良い集団づくり、いじめ対策、生徒理解
- 〈学習指導部〉 明確な学習ルール、チャレンジテストでの基礎学力の定着、家庭学習の推進、シラバス  
キャリア教育 地域学習（地域教材、伊豆の文学、オリ・パラ学習、ジオ学習）
- 〈特別活動部〉 教室掲示の統一、中伊豆中6つの誇り・生徒会活動の活性化、話し合いの充実、学年・学級経営の充実

## 子どもの実態

- 授業に対して肯定的に捉えている生徒が多い。また、与えられた課題に一生懸命取り組む。
- 自分の思いや考えを伝えること、最後まで粘り強く考えたり、他者の意見を取り入れて深く考えたりする姿勢が不十分である。また、発達障害の傾向も強く、分かりづらさを感じている生徒もおり、基本的な学習内容の定着が困難で個別の指導を必要とする生徒が多い。

## 研修の重点と具体的な取り組み

### (1) 学校教育目標の具現化に向けた「つなぐ」研修体制の構築

- ① 社会に開かれた教育課程（学校と生徒・保護者・地域とつなぐ）
  - ・ホームページや学校便りによって、指導のねらいや取組を積極的に発信する。
  - ・シラバスを作成し、新学習指導要領における各教科の目標や育成する資質・能力について発信する。
  - ・「伊豆の文学」「地域学習」「オリパラ学習」の開発、中伊豆ドリームプロジェクトの体系化など、地域素材の教材化を図る。
  - ・三者面談や授業参観等において、保護者との双方向のコミュニケーションを図る。
- ② カリキュラム・マネジメント（昨年度、本年度、次年度をつなぐ）
  - ・昨年度の実態・課題をもとに、本年度の教育活動を実践していく。
  - ・本年度の学校評価、生徒アンケート等を活用し、本年度の活動を見直し、修正していく。
  - ・年度末には、本年度の実態・課題及び学校評議委員会や三者面談、参観日等での意見をもとに、各指導部ごとに次年度の計画を作成する。
  - ・単元ごとに授業を振り返り、改善していくような工夫をする。
- ③ 教科横断的な学習（教科と教科をつなぐ）
  - ・道徳教育の推進を通して、教科横断的な視点を持ち、教育活動の改善を図っていく。
  - ・各教科で共通する資質・能力について共通して実践できるような工夫をしていく。
- ④ 授業改善、主体的・対話的授業（学習内容と生徒をつなぐ、生徒同士をつなぐ、学習内容と学習内容をつなぐ）
  - ・「わ・た・し」の授業づくり
  - ・学習内容に関連があり、生徒の思考の流れを意識した単元構想を行う。
  - ・学習指導要領の理論理解を土台に、生徒の思考の流れ、学びの交流授業を設定する。
  - ・授業では、**課題**のカードを活用し、生徒が「分かった」という実感を共有できる場面をつくる。
- ⑤ 若手研修、中心授業を中心とした授業研究（教職員の知識や経験をつなぐ）
  - ・要請訪問、先進校視察、学習指導要領の理論理解、模擬授業、板書の工夫をする。
  - ・付属校との協働研修
- ⑥ 生徒理解研修（教職員と生徒、生徒同士、保護者と生徒をつなぐ）
  - ・不登校未然防止研修、QU研修を実施する。 ・教員の共通理解

### (2) 伊豆市統一の取組

- ① 板書計画
- ② 単元構想図の工夫（教材研究の具体）
- ③ シミュレーション授業（事前研修）

## 研修年間計画

月	校内研修及び関連事項
4月	10 職員研修（研修計画・研修の重点目標・授業案の形式など）
	17 職員研修（生徒理解研修 アレルギー対応研修）
	26 職員研修（不登校研修）
5月	20 救命救急研修
	24 田教研5月集会
6月	6 保健体育科実技研修
	12 職員研修 伊豆市授業研（天城小）
	18 職員研修（単元構想・授業づくり研修）
7月	25 夏季研修①（公開授業研修計画）
	26 小中こ合同指導部会中伊豆地区（午前）伊豆市夏季研修会（午後）

月	校内研修及び関連事項	
8月	2	夏期研修②（授業案検討、外部講師招聘）
	7	静教研
	8	静教研
	22	夏期研修③（QU研修、道徳評価研修）
9月	25	職員研修（授業案検討、付属校との協働研修）
10月	16	地域支援課訪問（国語）
	30	職員研修 伊豆市授業研（修善寺中、修善寺南小）
11月	6	管理主事訪問
	13	田方地区一斉授業研
	20	職員研修（道徳研修、交流授業）
12月	26	職員研修（学校評価）
1月	8	職員研修（教育課程 成果と課題・改善案①）
	22	職員研修（教育課程 成果と課題・改善案②）
	29	職員研修（教育課程 報告・検討と決定）
2月	12	職員研修（教育課程 次年度基本方針・重点目標の決定）
	※	伊豆市センター総会